

京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

1. 国際研究ミーティングの名称

社会主義文化のネットワーク: 日本、中国、ソ連、そして東欧

2. 主宰責任者氏名

Irina Holca (イリーナ・ホルカ 東京大学准教授)

3. 開催日時等およびプログラム(講演者名または報告者名を明記してください)

①日時:2019年10月19日 13:00~18:00

場所:東京大学駒場キャンパス KIBER110 号室

13:00-13:15 趣旨説明 :Irina Holca

13:15-14:10 Anastasia Fedorova 国立ロシア研究大学高等経済学院准教授

題目:「Distribution and Reception of Leftist Japanese Cinema in Post-war USSR」

14:15-15:10 奥山史亮 北海道科学大学 講師

題目:「戦後ルーマニアにおける宗教的アルケタイプをめぐる言論」

15:10-15:30 休憩

15:30-16:25 尹芷汐 名古屋大学大学院博士研究員

題目:「226事件の記憶化をめぐる攻防—松本清張『日本改造法案北一輝の死』と社会主義中国

16:30-17:00 コメント:石川禎浩 京都大学教授

17:00-18:00 全体討論

4. 概要(400字程度)

日露映画交流史、社会主義下のルーマニアにおける神話と伝説の役割、翻訳文学を通じた戦後の日中の関わりについて、3者が研究報告を行い、文学や映画は社会主義圏内・外にいかに関わり、受容・改変されてきたかについて、また様々な国においてどんな「社会主義文化」が形成され、どんな政府・民間のネットワークに支えられたかについて、複数の研究分野の立場から考察を加える。横断的かつ越境的な「社会主義文化ネットワーク」の研究を通して、政治と文化の形態や文化の越境性を再検討し、現代のグローバル社会に通じる議論に連続させて展開した。

5. 参加者(別紙「参加状況」も記載してください。)

①学外

Irina Holca (イリーナ・ホルカ 東京大学准教授)

Anastasia Fedorova (アナスタシア・フェドロワ 国立ロシア研究大学高等経済学院准教授)

奥山史亮 (北海道科学大学 講師)

尹芷汐 (名古屋大学大学院博士研究員)

所内

石川禎浩

6. 助成金の使途等 申請書のとおりを使用した。

7. その他(成果や今後の展開等、自由に記載してください)

社会主義体制特有の文化政策とそれへの反発・反応が示され、今後の展開に大きく寄与した。

参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内(法人内)	1	1 ()	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()
国立大学	2	2 (2)	2 (2)	()	1 (1)	1 (1)	2 (2)	2 (2)	()	1 (1)	1 (1)
公立大学		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
私立大学	3	3 (2)	1 ()	()	()	()	()	3 (2)	1 ()	()	()
大学共同利用機関法人		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
独立行政法人等公的研究機関		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
民間機関		()	()	()	()	()	()	()	()	()	()
外国機関	1	1 (1)	1 (1)	1 (1)	()	()	()	1 (1)	1 (1)	()	()
その他	1	1 ()	()	()	()	()	1 ()	()	()	()	()
計	8	8 (5)	4 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (5)	4 (3)	1 (1)	1 (1)	1 (1)

※()内には、女性数を記載

※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。

※外国人、若手研究者(40歳未満)、若手研究者(35歳以下)、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対しての内数を記入してください。

※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に()で女性の内数を記入してください。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。

※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください

国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した:受入人数2人、延べ人数6人